

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2014.02) 14巻1号:121~122.

本学教員執筆書籍の紹介  
麻酔の前に知っておきたい手術手順と麻酔のコツ

鈴木 昭広

## 本学教員執筆書籍の紹介

鈴木昭広・岩崎寛 編集

# 麻酔の前に知っておきたい手術手順と麻酔のコツ

羊土社 2013年6月10日 第1版発行 B6変型判 255ページ 3,800円+税

鈴木昭広

旭川医科大学麻酔科蘇生科は全国の麻酔科の中でも activity が高く、教員が和気あいあいと楽しそうに働いていることで有名である。その背景には心臓麻酔や神経ブロック、気道管理や超音波、筋弛緩などの独自の強いセールスポイントがあること、さらに学生評価講義でも常に上位にランクインしている講義上手な教員らが学会講演や各種ワークショップの講師を務めることが多々あるため、旭医麻酔科の存在感を広くアピールしていることがあげられよう。その魅力を感じとった全国の麻酔科医が短期間当麻酔科で短期研修を行い、超音波の資格試験を取得したのちに学んだノウハウを持ち帰っていくことが定着し、これまでに数多くの国内留学生を受け入れ、旭川医大の種を全国に広め続けている。

今回紹介する羊土社の書籍「麻酔の前に知っておきたい手術手順と麻酔のコツ」は、当教室の activity を牽引する若手麻酔科医、ならびに当教室で研修をして地元に戻った人、また教室員と縁の深い全国の麻酔科医とで執筆した「キョクイ流」の麻酔指南書といえる。

編者の鈴木は麻酔科医生活 17 年を経て、今の旭川医大麻酔科に +  $\alpha$  の魅力を付加し、かつ今後必ずや必要となるであろう集中治療を学ぶべく、一度手術室の世界から出て、手術の前そして手術後の世界を垣間見ようことを決意した。そこで救急集中治療医学講座への配属を願い出、教室の仲間たちの理解を得て 40 歳を過ぎてから 5 年間の修業期間をいただくことができた。初期研修制度もなく、専門科への直接入局がほとんどの卒業生の進路だった時代に麻酔科に入局し、専門性を高めることだけに邁進してきた自分にとって、手術室の外に広がる未知の世界は刺激に溢れ新鮮であったと同時に、逆に今まで過ごしてきた手術室内の出来事が室の山であることに気づかされることとなった。

麻酔科医は手術麻酔ではせいぜい 1 日に多くても 10 名に満たない患者としか向き合うことはない。大学は長くて challenging なケースも多く、1 日に 1 名の患者ということもざらである。これは外来や病棟患者を抱える麻酔科医以外の医師たちが、数十人から時には百人近い患者と日々向き合うのとはきわめて対極的である。しかしそれだけに、麻酔科医は 1 例 1 例と深く向き合うことで、目の前にライブで広がる手術や、患者のヒストリー、各種の画像所見やカルテ内容から、実に様々なことを濃厚にかつコンパクトに学ぶことができる非常に恵まれた職種なのである。

救急外来や ICU での生活では、緊急処置の際のドレーン留置や固定など、いままで術場で何度も見ていたはずなのに自分では自信を持ってできない自分に気づき、診断も済んで答えのある放射線画像を見慣れた自分が、サラの写真のみをみて的確な診断を行う能力が不足していることに気づかされた。手術を行うための麻酔を実施するだけの受け身生活ではなく、手術を介して病気と手術を学ぶ能動的な麻酔を実践することで、日々の麻酔は自分を麻酔科医としてのみならず、ひとりの医師として成長させる大きな力を秘めていることを再認識させられたのだ。自分の日々の行動を変化させることで、麻酔科医の持てる潜在能力を今以上に、かつ術場の外でもいつでも役に立てることができるように拡張することができることを実感したのである。「1 つの症例ともっと密に関わりあう重要性」、この気付きを自分だけで留めておかず、仲間の麻酔科医にも伝えたい、という思いから本書籍のアイデアは生まれた。手術の流れを知ること、麻酔は今以上に楽しく有意義な勉強の場にもなる。さっそく、鈴木が研修医向け雑誌「レジデントノート」の連載記事を執筆させていただいている関係から、羊土社につてを利用して企画を持ち込み、教室と教室 OB ともいえる仲間たち

の執筆協力を得て“メイド・イン・キョクイ”的な書籍刊行が実現した。書籍はこれを記念し、岩崎教授が会長を務めた日本麻酔科学会の開催日を狙って発行されることとなった。新しい旭川医大麻酔科の魅力を全国に知らしめる一石となったと考えている。

また、本書は主に初期研修医をターゲットに作成され、初期研修時代に麻酔科を回った医師に麻酔科の魅力をもっと伝える原動力となることを期待しているの

だが、研修医だけではなく、術場看護師にも人気があるように思わぬ副産物となった。機会があれば改訂を重ね、今回盛り込めなかった心臓麻酔など、より踏み込んだ手術と麻酔のコツを紹介できればと目論んでいる。卒業生OBの皆さんの周囲の麻酔科医、初期研修医や術場ナースに是非ご紹介いただけると幸いである。

(旭川医科大学 麻酔・蘇生学講座)